

人生、楽しく。
とにかく楽しく。

5

日本人がセカンドライフを過ごすための場所としてアクティブシニアタウン（リタイアメント・コミュニティ）が過している理由は、基本的に日本人が「パケーションの有意義な楽しみ方」を知らないからです。特に、いま50歳以上の人は新婚旅行以外にロングパケーションを取ったことがあまりない。働きバチ世代“なので、遊びさえも手とり足とり教えないければなりません。

欧米人はリゾートに行く、スキーやマリッジジャーなど特定の目的がない場合は、何もしないでのおんびりと過ごし、読書や日光浴や昼寝を楽しみます。何かをするとしても、そのリゾートの中で手軽にできることに限られます。ところが日本人の場合、昼間は動き回って「観光」してないと損をしたような気になる性分らしく、

「観光」以外の遊びが
とても苦手な日本人

たとえば、ある滞在型リゾートホテルはパッケージでさまざまなアクティビティを用意し、そのための施設・設備を整えてサポートスタッフもそろえ、ゲストはホテルの中でバカンスが楽しめるシステムになっています。

しかし、そのホテルのマネージャーによると、日本人の大半は朝食を終えたら、みんな外出してしまおうです。サポートスタッフが工夫を凝らしたアクティビティを準備しているのに、それには見向きもしない。周辺に名所旧跡や見るべきものがなくても、とにかくどこかへ出かけていく。夕方になると帰ってきて、夕食を食べて寝る。次の日もまた朝食を食べたら、そそくさと出かけていってしまふ。これでは何のために滞在型リゾートホテルに来たのかわかりません。

日本人は「観光」以外のアクティブな遊びがとても苦手です。私はよく、親しい経営者や政治家をロングパケーションに誘うのですが、みんなリゾートに行っても何もしようとしない。というか、何

日本人に適している アクティブシニアタウンで 夫婦がともに満足できる 充実したセカンドライフを

今回は、アクティブシニアタウンの先進国・アメリカの例として、ラグナウッズ市にあるラグナウッズヴィレッジを紹介した。日本人が充実したセカンドライフを楽しむためには、コミュニティの住民がアクティビティを同好会形式で自主運営するアクティブシニアタウンが向いている、と大前氏は言う。



■大前 研一（おおまえ けんいち）
（プロフィール）
1943年福岡県生まれ。日立製作所勤務を経て、72年に経営コンサルティング会社マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク入社。本社ディレクター、日本支社長、アジア太平洋地区会長を歴任し、95年に退社。以後も世界の大手企業やアジア・太平洋における国家レベルのアドバイザーとして幅広く活躍するとともに、「ホーダレス経済学」と「地域国家論」の提唱者としてグローバルな視点と大胆な発想で活発な提言を行っている。現在は、ビジネス・ブレイクスルー代表取締役、ビジネス・ブレイクスルー大学院大学学長などを務める。趣味はクラリネット、オフロードバイク、スノーモビル、ジェットスキー、スキューバダイビングと多彩。著書は「旅の極意・人生の極意」（講談社）など多数。

をすればよいかわからない。そういうとき、私は半ば強引に遊びを体験してもらいます。すると、最初は尻込みしていた人でも、例外なく夢中になります。

たとえば、ある経済人にはラフトイング（ゴムボートに乗って激流を下るアウトドアスポーツ）を、ある政治家にはジェットスキーを手ほどきしました。終わってみたら、2人とも「私の人生の中で一番楽しかった」と大喜びしていました。政治家のほうは、それ以来、ジェットスキーが趣味になりました。功なり身を立て名を上げた人でも、その程度なのです。

だから私は、コミュニティ内に約270ものアクティビティがあり、住民の中のエキスパートや若いボランティアが指導してくれるラグナウッズヴィレッジのようなアクティブシニアタウンが、遊び下手な日本人には向いていると思わうわけです。

**夫婦で趣味嗜好が違っても
個々に楽しみを発見できる**
また、多彩なアクティビティが用意されていて選択肢が豊富なアクティブシニアタウンなら、たとえ夫婦の趣味嗜好が違っていても、コミュニティの中で個々に楽しみを見つけることができます。

現役時代は公私とも夫婦そろって行動することが多いアメリカでは、リタイア後に夫と妻が結婚したまま別居するケースが珍しくありません。

私の友人にも、離婚しないで別居しているアメリカ人カップルがいます。ご主人は海が好きで、奥さんは山が好きだからです。リタイア後のセカンドライフは、お互いに好きな場所が好きなお互いで過ごそうということ、ご主人は海辺のリゾートに、奥さんは高原のリゾートに移り住みました。ふだんは別々に暮らし、ときどき会って食事をするという関係です。結婚生活が20年以上になったら、むしろそのぐらいの距離感のほうが気楽で心地よい、と思う夫婦も多いのではないのでしょうか。

実際、ラグナウッズヴィレッジの場合、住民の3分の2がシングルシニアです。配偶者と離婚、あるいは死別した人もいますが、そうでなくても配偶者と別居して1人で暮らしているケースが多いそうです。夫婦で住んでいても、参加しているアクティビティは別々というパターンが普通だと聞きました。もちろんリタイア後も夫婦仲良く暮らすに越したことはないし、同じ趣味を持っていれば理想的です。とはいえ、コミュニティ

